

事業者提案に対する市の考え方（案）

課題 1：広場や「柱廊」部分を含めた建築物前面の空間のデザインの工夫について

本町通りは、別名コンテナ通りといわれるようになりかなり交通量が多く、交通量の割に歩道の幅員も十分とは言えない箇所もあります。こうした現況を背景に、今回「柱廊」を誘導していく目的は、歩行者に優しい空間を提供するためと考えます。本計画では、単にオープンな歩道状空地とすることよりも柱や囲いを設けることで、歩行者が、道路とは隔たれた空間と認識し、居心地の良さを感じられる計画になっていると評価しています。

広場については、だれもが気軽に使えるベンチやテーブルの設置やシンボルツリーなど植栽の工夫、さらにデザインされたアイアンワークにより、人々が集まり、交流が生まれるような空間となっていると考えます。

この空間の印象を決定づける「柱廊」のデザインについては、深い色あいの部材による組子調にデザインされたアイアンワークを用いることで、繊細さ、格調高さを表現しつつ、街並みのラインの高さにも配慮されています。

旧露亜銀行と「対比的な調和」を図られている一方で、格調高さが表現されたファサードにより、歴史的建造物を引き立てる工夫がされています。露亜銀行を引き立てつつも、横浜の名所の一つとなり得る、洗練されたデザインと評価できます。

課題 2：夜間景観について

歴史的界限形成エリアでは、歴史的建造物以外をライトアップすることができません。本計画では、露亜銀行のライトアップを阻害しないホテルの照明が滲み出す落ち着いたものとなっており、特に、低層部においては、アイアンワークの陰影により上品に演出されています。

課題 3：頂部のデザインについて

眺望景観については、目立たないようにするのが大原則ですが、バンケット階に機能上突出した箇所を設けざるを得ないのであれば、(景観協議は事業者に強要するものではないので)きちんとデザインするよう求めます。

今回の計画は、高層棟の壁面に対し、平面計画においてバンケットフロアの軸を斜めにずらすことで、機能上突出したバンケットの一部を積極的に取り入れ、頭頂部デザインに変化を持たせています。繊細さ、格調高さを表現した低層部のファザードに対し、頭頂部の表情に斬新さと海への眺望を連想させる面白さを持たせ、評価できるデザインであると考えています。

課題 4：露亜銀行の背景としてのホテルの見え方について

いかにも建物「裏」側の煩雑なものとならないような最低限の配慮がなされています。

課題 5：中層部の設えの工夫について

低層部や高層部にデザインの工夫があり、中層部については、安っぽくならない範囲でシンプルにまとめるのがよいと考えます。

シンプルながら格調高いホテルらしいものとするため、安易にコンクリート面やガラス面が一様に広がる仕様とせず、表情をつけることで、比較的、圧迫感を抑え、落ち着きやグレード感を持たせています。

課題 6：格式の高いホテルエントランスの工夫について

48番館通りまでアイアンワークを延長させ、ホテルエントランスに高級感を与えていると考えます。